

教育プログラム図開発試論 ―ISCED を活用した接続状況図示の試み―

吉田重和¹⁾

1) 新潟医療福祉大学 健康スポーツ学科

【背景・目的】 ユネスコは、各国の教育事象を横断的に分析するために国際標準教育分類（International Standard Classification of Education ; ISCED）を定めている。ISCED により分類されるのは「予め定められた学習目標を達成したり、明確に規定された一連の教育課題を達成したりすることを目的として計画・組織された、一貫した順序をもつ教育活動」と定義される教育プログラムである¹⁾。近年多くの国々において、一つの教育機関で複数の教育プログラムが提供されていることを踏まえると、教育プログラム単位で教育事象を捉えるという視点は重要である。

他方で佐藤らが指摘しているように、特に国内における比較・国際教育研究において ISCED が活用されている事例は多くない²⁾。本研究ではこれらの点を踏まえ、比較教育研究における ISCED 活用の可能性を示すべく、ISCED に基づく教育プログラム図の開発試案を提示することを目的とする。その際、日本の前期中等教育から後期中等教育への接続状況を事例として使用し、従来使用されてきた学校体系図との差異点を示すことにより、教育プログラム図開発の意義を見出すこととしたい。

【方法】 本研究は、日本の教育制度を取り上げ、質的な観点から ISCED 活用の可能性を探る事例研究である。具体的には、ISCED2011 関連資料を用いて、日本の中等教育における接続状況に焦点化した教育プログラム図を提示し、学校体系図との比較を通してその特徴と利点を示す。

【結果・考察】 図1は、通常使用されている学校体系図について、日本の前期中等教育から後期中等教育への接続箇所を抜き出して示したものである。

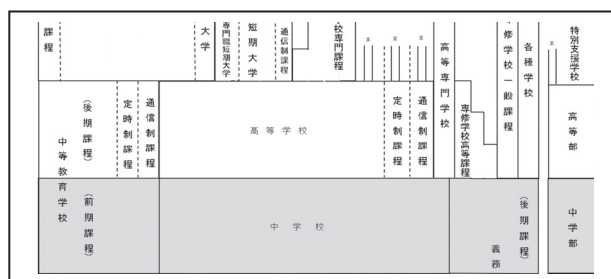


図1 学校体系図にみる日本の前期中等教育から後期中等教育への接続状況³⁾

学校体系図は、学校種間の接続をそれぞれの上底と下底を接するように配置することで示すため、すべての接続を

図示できないという限界がある。また図中で示されるのは教育機関でありプログラムではないため、教育制度の図示という点で正確さに欠けるという点も課題である。

図2は、ISCED2011 関連資料に基づき、日本の中等教育プログラムの構造を示した教育プログラム図である。

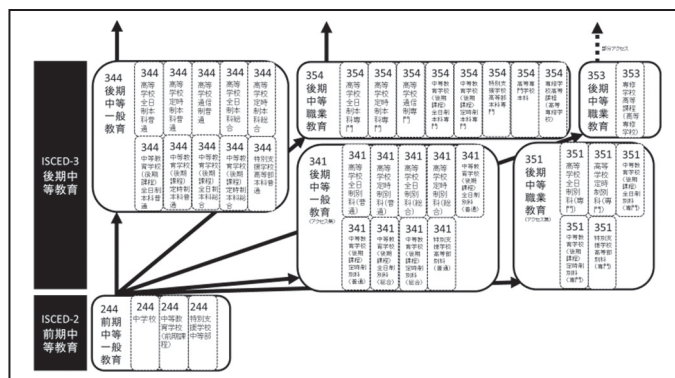


図2 教育プログラム図にみる日本の前期中等教育から後期中等教育への接続状況

教育プログラム図において、接続状況はプログラム群間を繋ぐ矢印として図示される。図2に示されているように、「244 前期中等一般教育」からは複数の接続が確認される。具体的には、高等教育へのアクセスを伴う「344 後期中等一般教育」「354 後期中等職業教育」、高等教育以外へのアクセスを伴う「353 後期中等職業教育」、上位機関へのアクセスを伴わない「341 後期中等一般教育」「351 後期中等職業教育」という5種類の教育プログラム群への接続が整備されていることがわかる。

本研究で明らかにされたように、教育プログラム及びその接続状況の図示が可能であり、教育制度図の精緻化が図られることから、ISCED を用いた教育プログラム図には一定の意義があるといえる。

【結論】 ISCED を活用した教育プログラム図は、各国の教育プログラム及び接続状況の図示が可能であり、学校系統図の課題を補うことができる。

【謝辞】 本研究は JSPS 科研費 20K02573 の助成を受けたものである。

【文献】

- 1) UNESCO-UIS: International Standard Classification of Education ISCED2011, 2012.
- 2) 佐藤裕紀, 長島啓記, 日暮トモ子ら: 比較教育研究における国際標準教育分類 (ISCED) 活用の可能性ーISCED2011 の成立経緯・特徴・課題, 早稲田教育評論, 33 (1): 79-86, 2019.
- 3) 文部科学省, 「諸外国の教育統計」平成 31 (2019) 年版, https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/data/syogaikoku/1415074.htm, 2020 年 8 月 25 日.